

令和6年度から使用する広島市立小学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔社会〕 種目〔社会〕

令和6年度から使用する小学校用教科用図書の採択について

教科 [ 社会 ] 種目 [ 社会 ]

1 本市の実態や児童の状況

- 本市には、官公庁や商業施設が集まる地域、工業・農業・漁業等が行われている地域、宅地造成により住宅地が広がる地域、豊かな自然の残る地域、歴史的遺物がある地域など、それぞれに異なる特色をもつ地域がある。また、近年の自然災害の脅威は、本市においても大きな課題となっており、高い防災意識が求められている。社会的事象を学ぶ社会科にとっては、様々な分野の事象を具体的に観察・調査することができる環境にあるため、児童が興味・関心をもちながら学習することができる好条件の市域である。
- 国際平和文化都市である本市で学ぶ児童は、平和に対する意識が総じて高く、平和な社会の実現へ向けて、自分たちにできることを考えようとするすることができる。また、社会的事象への関心が高く、体験的な学習にも積極的に取り組むことができる。しかし、自ら課題を見付けることや身に付けた知識、調べたこと、考えたことをもとに、協働的に学ぶことには課題が見られる。

2 調査・研究の観点と視点

| 観 点             | 視 点   |
|-----------------|---|
| <基礎・基本の定着>      | ① 地域や我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫<br>② グローバル化する国際社会で主体的に生きるために必要な知識・技能を身に付けさせる工夫<br>③ 社会的事象の見方・考え方を働かせるための工夫 |
| <主体的に学習に取り組む工夫> | ④ 学習内容に対する興味・関心を高めるための工夫<br>⑤ 課題を追究したり、解決したりする学習を実施するための工夫  |
| <内容の構成・配列・分量>   | ⑥ 単元や資料等の配列・分量  |
| <内容の表現・表記>      | ⑦ 本文記述との適切な関連付けがなされた挿絵・写真等の活用<br>⑧ 本文以外の記述の工夫<br>⑨ 配色や文字の大きさ等の工夫  |
| <言語活動の充実>       | ⑩ 調べたことや考えたこと、選択・判断したことを適切に表現する力を育成するための工夫  |

### 3 各教科書の特徴

#### 1 基礎・基本の定着

##### 視点① 地域や我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫

- 4年「わたしたちの県」では、大単元の最初に47都道府県を取り上げている。
  - ・ 「日本地図を広げて」では、各都道府県の名称と位置、県庁所在地を示している。
  - ・ 「都道府県の特産品」では、各都道府県の特産品を例示している。
  - ・ 「空から日本を見てみると」では、日本の海、山、川、湖等の地形を示している。
  - ・ 各都道府県の形や特色等をカードにし、都道府県名を記入することができるようにしている。
- 5年上「世界の中の国土」では、領土の広がりについて地図と写真で示すとともに、本文でも説明している。領土をめぐる問題については、別ページにおいて、竹島や北方領土、尖閣諸島を取り上げ、地図と写真と文章で示している。
- 6年歴史編「今に伝わる室町文化」では、室町時代に生まれた文化が現在も行われている様子の写真を掲載している。
  - ・ 茶の湯、生け花、壬生の花田植、狂言、能

##### 視点② グローバル化する国際社会で主体的に生きるために必要な知識・技能を身に付けさせる工夫

- 6年政治・国際編「日本とつながりの深い国々」では、アメリカ・中国・フランス・ブラジルを例示し、衣食住、学校の様子や子どもたちの生活、文化やスポーツ、産業等について調べる学習を示している。
- 6年政治・国際編「世界の未来と日本の役割」では、紛争や環境問題等の諸課題について、それらの解決に向けた取組として国際連合（ユニセフ）や持続可能な開発目標（SDGs）、政府開発援助（ODA）、NGO等を取り上げるとともに、単元の最後に「SDGsの17の目標を参考に、世界のさまざまな課題の解決のために、自分たちにできることを考えましょう。」と問いかけ、自分たちにできることを考える学習を示している。

##### 視点③ 社会的事象の見方・考え方を働かせるための工夫

- 「見方・考え方」について、各学年の「学習の進め方」のページに、「社会科の見方・考え方」として、次の①～④を示している。

〔参考〕4年生の表記

- ① 広がり注目
- ② 時間に注目
- ③ 関係するところに着目
- ④ くらべる、分ける、まとめる、つなげる

- 側注などで見方・考え方を表すキャラクターのマークを示すとともに、どのような見方・考え方を働かせるのかを主に問いで示している。
- 4年「ごみのしゅりと利用」では、側注に「社会科の見方・考え方」を表すマークとともに、「ごみしゅりのしくみやくふうと自分たちの生活には、どのようなつながりがあるかな。」等の問いを記述し、見方・考え方を示している。

#### 2 主体的に学習に取り組む工夫

##### 視点④ 学習内容に対する興味・関心を高めるための工夫

- 写真やイラスト、グラフなどの様々な資料を用いて、学習内容へ興味・関心を高めている。
- 3年「わたしたちのまち みんなのまち」では、社会科学習の始まりである大単元の導入として、まちの様子をイラストで示し、身の回りにある社会的事象に興味・関心をもつことができるようにし、「わたしたちのまちは、どのような様子なのでしょう。」につなげている。
- 6年政治・国際編「わたしたちの生活と政治」では、「さまざまな話し合い」と「話し合いで決められたこと」を並べて示し、政治の働きについて興味・関心をもつことができるようにしている。

##### 視点⑤ 課題を追究したり、解決したりする学習を実施するための工夫

- 各学年の最初の単元の中で、問題解決的な「学習の進め方」を学習活動の具体例とともに示している。また、各見開きページの中に「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」の言葉とともに、各時間のめあてを示している。
- 4年「自然災害からくらしを守る」では、千葉県のような自然災害（風水害・地震・津波等）を例示し、千葉市の風水害への対策を取り上げた小単元「風水害からくらしを守る」へと展開している。
  - ・ 「つかむ」では、風水害の被害や風水害からくらしを守る人々の働きの概要を把握した後、学習問題「風水害からくらしを守るために、だれが、どのような取り組みをしているのでしょうか。」を設定している。そして、「調べること、調べ方、まとめ方」を示すことで、課題解決への見通しがもてるようにしている。
  - ・ 「調べる」では、千葉県の風水害の歴史、千葉県の取組、千葉市の取組、地域の人々の取組、自助の取組を調べるようにしている。
  - ・ 「まとめる」では、学習問題を再提示し、学習内容を振り返る4人の子どものイラストと吹き出しがあり、自助、共助、公助について図に整理する活動を示した上で、学習問題について自分の考えをノートにまとめる活動を示している。
  - ・ 「いかす」では、マイ・タイムラインをつくることで自分たちの防災行動を考える活動を示している。

・ 「ひろげる」という形で、地震災害、火山災害についても調べられるようになっている。

### 3 内容の構成・配列・分量

#### 視点⑥ 単元や資料等の配列・分量

- 教科書の総ページ数は、次の通りである。

|            |                  |
|------------|------------------|
| 3年         | 140ページ           |
| 4年         | 168ページ           |
| 5年(上)      | 124ページ           |
| (下)        | 128ページ(合計252ページ) |
| 6年(政治・国際編) | 112ページ           |
| (歴史編)      | 160ページ(合計272ページ) |
- 選択可能な教材を目次に示している。各学年において選択可能な教材が示されている単元は、次の通りである。

|    |                 |
|----|-----------------|
| 3年 | はたらく人とわたしたちの暮らし |
| 4年 | 特色ある地いきと人々の暮らし  |
| 5年 | わたしたちの国土        |
| 6年 | わたしたちの生活と政治     |
- 6年歴史編「日本の歴史」は、12の小単元で構成している。飛鳥・奈良時代と平安時代を2つの小単元に分けて構成している。
- 広島県に関する教材等は次の通りである。

[事例]

  - ・ 食料品をつくる工業(ソース工場)(5年下)
  - ・ 「平和学習の街ヒロシマ」を訪ねて(6年政治・国際編)
  - ・ 日本遺産を調べよう 鞆の浦(6年歴史)
  - ・ 被爆前後の広島の写真や平和記念資料館の館長さんの話(6年歴史)

[写真]

  - ・ 広島県呉市でつくられた船(5年下)
  - ・ 平成26年8月豪雨での土砂災害(5年下)
  - ・ 砂防ダムで止まった土石流(5年下)
  - ・ 壬生の花田植(6年政治・国際編、6年歴史編)
  - ・ 厳島神社(6年歴史編)
  - ・ 原爆ドーム(6年歴史編)

東京書籍

### 4 内容の表現・表記

#### 視点⑦ 本文記述との適切な関連付けがなされた挿絵・写真等の活用

- 掲載した資料と本文記述に関連をもたせている。
- 5年「これからの食料生産とわたしたち」では、以下の本文等と同ページの資料との関連を図っている。
  - ・ 写真①「食生活の変化」  
→ 本文「ゆうとさんたちは、和食と洋食の写真を見ながら、毎日の食生活について話し合いました。」
  - ・ グラフ②「食料品別の輸入量の変化」  
→ 本文「ふだん食べているものの中には、輸入された食料品がたくさんあることが分かりました。」
  - ・ グラフ③「一人1日あたりの食べ物の割合の変化(カロリーベース)」  
→ 本文「1960(昭和35)年と2019(令和元)年の1日の食べ物のわりあいの変化を比べてみると、米が減り、肉やその加工品、乳製品などの畜産物がとても増えています。」

#### 視点⑧ 本文以外の記述の工夫

- 重要な用語を、側注の「ことば」で取り上げ、解説している。
- 難しい言葉を、側注の「用語解説」で取り上げ、説明している。
- 「まなび方コーナー」を「見る・聞く・ふれる」「読み取る」「表す・伝える」の観点に分け、場面に応じた学習方法を示している。

#### 視点⑨ 配色や文字の大きさ等の工夫

- カラーユニバーサルデザインに配慮している。
- ユニバーサルデザインフォントを採用している。

### 5 言語活動の充実

#### 視点⑩ 調べたことや考えたこと、選択・判断したことを適切に表現する力を育成するための工夫

- 小単元の終わりには「まとめる」ページがあり、単元の学習問題や学習したキーワードを再掲し、学習したことをまとめるように示している。
- 6年「わたしたちの暮らしと日本国憲法」の「まとめる」では、日本国憲法の三つの原則と暮らしとのつながり等について表にまとめた上で、話し合うようにしている。
- 6年「長く続いた戦争と人々の暮らし」の「まとめる」では、戦争が人々に与えた影響について関係図にまとめた上で、話し合うようにしている。

## 1 基礎・基本の定着

### 視点① 地域や我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫

- 4年「みりょくがいっぱい！知りたいな、47都道府県」では、47都道府県を取り上げている。
  - ・ 「日本の都道府県の区分」では、各都道府県の名称と位置、県庁所在地を示している。
  - ・ 「地図帳を使って〇〇を調べる」では、特産物、祭り、観光地について、19の道府県に関する写真を例示している。
  - ・ 「47都道府県のクイズ大会を開こう！」という活動を示している。
- 5年「世界の中の日本の国土」では、領土の広がりについて地図と写真で示し、本文では竹島や北方領土、尖閣諸島について説明している。別ページには、竹島と尖閣諸島についての補助資料を掲載している。
- 6年「室町文化と力をつける人々」では、室町時代に生まれた文化が現在も行われている様子の写真を掲載している。
  - ・ 茶の湯、生け花、壬生の花田植、祇園祭、能、狂言

### 視点② グローバル化する国際社会で主体的に生きるために必要な知識・技能を身に付けさせる工夫

- 6年「日本とつながりの深い国々」では、アメリカ・中国・ブラジル・サウジアラビアを例示し、日本とつながり、国土や産業の様子、衣食住や学校生活など暮らしの様子、文化や習慣等について調べる学習を示している。
- 6年「地球規模の課題の解決と国際協力」では、難民や環境問題等の諸課題について、それらの解決に向けた取組としてNGOや国際連合（ユニセフ）、持続可能な開発目標（SDGs）、政府開発援助（ODA）等を取り上げるとともに、単元の最後に「世界の人々とともに生きていくために、大切なことを考えよう。」と問いかけ、自分たちにできることを考える学習を示している。

### 視点③ 社会的事象の見方・考え方を働かせるための工夫

- 「見方・考え方」について、各学年の「社会科で使う見方・考え方」のページに、次の①～⑥を示している。

〔参考〕4年生の表記

- ① 時期や時間の変化
- ② 場所や広がり
- ③ くらべる
- ④ くふうやかかわり
- ⑤ 関連づける
- ⑥ 総合する

- 側注などで「学びのてびき」や児童の吹き出しを用いたり、本文で児童の気付きとして記述したりすることで、どのような見方・考え方を働かせるかを示している。
- 4年「ごみはどこへ」では、本文に「地域のいろいろな人たちが、協力しあって、ごみをへらそうとしているんだね。わたしたちには何ができるだろう。」等の児童の気付きを記述し、見方・考え方を示している。

## 2 主体的に学習に取り組む工夫

### 視点④ 学習内容に対する興味・関心を高めるための工夫

- 写真やイラスト、グラフなどの様々な資料を用いて、学習内容へ興味・関心を高めている。
- 3年「わたしたちのまちと市」では、社会科学習の始まりである大単元の導入として、まちの様子をイラストで示し、身の回りにある社会的事象に興味・関心をもつことができるようにし、「みんながくらすまちは、どんな様子なのか、調べてみようよ。」につなげている。
- 6年「ともに生きる暮らしと政治」では、オリンピック・パラリンピックを取り上げ、政治の働きについて興味・関心をもつことができるようにしている。

### 視点⑤ 課題を追究したり、解決したりする学習を実施するための工夫

- 各学年の巻頭に、問題解決的な「社会科の学習の進め方」を最初の単元を例として示している。
  - また、各見開きページの中に「つかむ」「調べる」「まとめる」「つなげる」の言葉とともに、「この時間の問い」と「次につなげよう」という問いかけを示している。
- 4年「自然災害にそなえるまちづくり」では、全国の様々な自然災害（地震・噴火・大雪・大雨等）を例示し、静岡市の地震災害への対策を取り上げた小単元「地震にそなえるまちづくり」へと展開している。
  - ・ 「つかむ」では、地震災害の歴史、家庭や学校の災害へのそなえを把握した後、「みんなで作った学習問題」として「わたしたちの地域では、地震や津波にそなえて、だれがどのような取り組みをしているのだろう。」を設定している。そして、「予想したこと」「調べること」「調べ方」を示すことで、課題解決への見通しがもてるようにしている。
  - ・ 「調べる」では、市役所の取り組み、地震や津波に関する情報、静岡市の防災設備、地域の取組、静岡市以外の防災に関する取組事例を調べるようにしている。
  - ・ 「まとめる」では、学習問題を再提示し、学習を振り返る4人の子どものイラストと吹き出しがあり、だれが、どのような取組をしているのか表に整理する活動を示した上で、学習問題について自分の考えをノートにまとめる活動を示している。
  - ・ 「つなげる」では、地震や津波への備えについて、標語をつくる活動を示している。
  - ・ 「せんたく」という形で、水害、火山災害、雪害についても調べられるようになっている。水害に関しては、「つかむ」「調べる」「まとめる」「つなげる」の学習展開となっている。

### 3 内容の構成・配列・分量

#### 視点⑥ 単元や資料等の配列・分量

- 教科書の総ページ数は、次の通りである。

|    |        |
|----|--------|
| 3年 | 176ページ |
| 4年 | 216ページ |
| 5年 | 260ページ |
| 6年 | 296ページ |

- 選択可能な教材を目次に示している。各学年において選択可能な教材が示されている単元は、次の通りである。

|    |  |
|----|--|
| 3年 | はたらく人とわたしたちの暮らし  |
| 4年 | 健康な暮らしとまちづくり<br>自然災害にそなえるまちづくり<br>昔から今へと続くまちづくり<br>わたしたちの県のまちづくり |
| 5年 | 日本の国土とわたしたちの暮らし<br>未来を支える食糧生産<br>未来をつくり出す工業生産<br>未来とつながる情報       |
| 6年 | ともに生きる暮らしと政治   |

- 6年「日本の歴史」は、11の小単元で構成している。飛鳥・奈良・平安時代を1つの小単元として構成している。

- 広島県に関する教材等は次の通りである。

#### [事例]

- ・ 「47都道府県のクイズ大会を開こう！」での「つくったカード(例)」(4年)
- ・ 広島の平和記念式典(6年)
- ・ 原子爆弾の投下前後の広島(6年)
- ・ 子どもたちの誓いー広島から世界へ向けて(6年)

#### [写真]

- ・ いどうはんばい車で買い物をするお年寄り(3年)
- ・ 大雨による土砂くずれ(5年)
- ・ 地震のゆれに強くする改修を進める、新幹線の線路の柱(5年)
- ・ 2015(平成27)年に完成した砂防ダム(5年)
- ・ 原爆ドーム(5年、6年)
- ・ 厳島神社(5年、6年)
- ・ 壬生の花田植(6年)
- ・ 広島平和記念公園をおとずれたアメリカのオバマ大統領(当時)(6年)

### 4 内容の表現・表記

#### 視点⑦ 本文記述との適切な関連付けがなされた挿絵・写真等の活用

- 掲載した資料と本文記述に関連をもたせている。

- 5年「これからの食料生産」では、以下の本文等と同ページの資料との関連を図っている。

- ・ グラフア「さまざまな食料の輸入の割合」

→ 吹き出し「大豆は、輸入したものがほとんどなんだね。みそやしょうゆの原料なのに…。」

- ・ 地図ウ「日本が食料を輸入している主な相手先」

→ 本文「交通の発達や冷凍技術の進歩によって、遠い外国からでも新鮮なまま食料を運べるようになり、食料の輸入は増えてきました。」

- ・ グラフエ「主な食料の生産量の変化」

グラフオ「主な食料の自給率の変化」

→ 吹き出し「エとオを見ると、生産量も自給率も下がっている食料がいくつもあるね。」

#### 視点⑧ 本文以外の記述の工夫

- 重要な用語を、側注の「キーワード」で取り上げ、解説している。

- 難しい言葉を、側注の「解説」で取り上げ、説明している。

- 「学びのてびき」を「集める」「読み取る」「表す」の観点に分け、場面に応じた学習方法を示している。

#### 視点⑨ 配色や文字の大きさ等の工夫

- カラーユニバーサルデザインに配慮している。

- ユニバーサルデザインフォントを採用している。

### 5 言語活動の充実

#### 視点⑩ 調べたことや考えたこと、選択・判断したことを適切に表現する力を育成するための工夫

- 小単元の終わりには「まとめる」ページがあり、単元の学習問題や学習したキーワードを再掲し、学習したことをまとめるように示している。

- 6年「憲法とわたしたちの暮らし」の「まとめる」では、三権分立の図をもとに、国民が意見を政治に反映させる仕組みについてレポートにまとめた上で、説明するようにしている。

- 6年「戦争と人々の暮らし」の「まとめる」では、戦争中の出来事をリーフレットにまとめた上で、学習して考えたことをノートに書くようにしている。

## 1 基礎・基本の定着

### 視点① 地域や我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫

- 4年「日本の47都道府県を旅してみよう」では、47都道府県を取り上げている。
  - ・ 「れんさんたちが調べた都道府県の特徴」では、食べ物、工芸品、工業製品、文化財、祭りなどについて19の都道府県に関する写真を例示している。
  - ・ 各都道府県の位置を示した地図を掲載し、地方区分ごとに、都道府県名を記入することができるようにしている。
- 5年「世界から見た日本」では、領土の広がりについて地図と写真で示すとともに、本文でも説明している。領土をめぐる問題については、別ページにおいて、竹島や北方領土、尖閣諸島を取り上げ、地図と写真と文章で示している。
- 6年「今に伝わる室町の文化と人々の暮らし」では、室町時代に生まれた文化が現在も行われている様子の写真を掲載している。
  - ・ 祇園祭、茶の湯、壬生の花田植、能、狂言

### 視点② グローバル化する国際社会で主体的に生きるために必要な知識・技能を身に付けさせる工夫

- 6年「日本とつながりの深い国々」では、アメリカ・中国・ブラジル・韓国を例示し、日本とのつながり、国土の特徴、人々の生活の様子等について調べる学習を示している。
- 6年「世界が抱える問題と日本の役割」では、紛争や環境問題等の諸課題について、それらの解決に向けた取組として国際連合（ユニセフ）やNGO、持続可能な開発目標（SDGs）、青年海外協力隊、国境なき医師団等を取り上げるとともに、単元の最後に「世界の人々とともに生きていくために、日本は、どのような役割をはたせばよいのだろう。」と問いかけ、日本が行っている国際協力について心に残ったことや世界における日本の役割について考えたことを話し合う学習を示している。

### 視点③ 社会的事象の見方・考え方を働かせるための工夫

- 「見方・考え方」について、各学年の「教科書の中のいろいろなコーナー」のページに、「見方・考え方」として、次の①～③を示している。

〔参考〕4年生の表記

- ① 空間
- ② 時間
- ③ 関係

- 側注などで見方・考え方を表すマークと言葉を示すとともに、どのような見方・考え方を働かせるかを主に問いで示している。
- 4年「ごみのしよりと活用」では、側注に「見方・考え方」を表すマークとともに、「うめ立て場をつくるためのむずかしい問題について、いろいろな立場に着目して考えてみよう。」という問いを記述し、見方・考え方を示している。

## 2 主体的に学習に取り組む工夫

### 視点④ 学習内容に対する興味・関心を高めるための工夫

- 写真やイラスト、グラフなどの様々な資料を用いて、学習内容へ興味・関心を高めている。
- 3年「わたしたちの住んでいるところ」では、社会科学習の始まりである大単元の導入として、姫路市の航空写真を示し、身の回りにある社会的事象を発見できるようにし、「これから、自分たちの市について学習していきます。市には、どのような場所があってどのようなちがいがいいのか、調べてみましょう。」につなげている。
- 6年「わが国の政治のはたらき」では、ユニバーサル都市をめざす福岡市の取組の写真と航空写真を示し、政治の働きについて興味・関心をもつことができるようにしている。

### 視点⑤ 課題を追究したり、解決したりする学習を実施するための工夫

- 各学年の巻頭に、問題解決的な「社会科の学習の進め方」を最初の単元を例として示している。また、各見開きページの中に「問題を発見する力を身につけよう」「問題を追究・解決する力を身につけよう」「問題をほりさげ、よりよい未来をつくる力を身につけよう」の言葉とともに、「わたし（たち）の問題」を示している。
- 4年「自然災害から人々を守る活動」では、東京都の様々な自然災害（噴火・土砂災害・地震・高潮・竜巻等）を例示し、東京都の風水害への対策を取り上げた小単元「自然災害から命を守る」へと展開している。
  - ・ 「問題を発見する力を身につけよう」では、風水害の被害や風水害からくらしを守る取組の概要を把握した後、学習問題「風水害から人々の命を守るために、どのようにくふうや努力があるのだろう。」を設定している。そして、「調べたいこと」「調べ方」「まとめ方」を示すことで、課題解決への見通しがもてるようにしている。
  - ・ 「問題を追究・解決する力を身につけよう」では、風水害を防ぐ施設、救助に関わる人々、防災情報の活用、地域の取組を調べるようにしている。
  - ・ 「問題を追究・解決する力を身につけよう」の最後に、風水害対策について関係図を整理したり、地域の防災関係者に手紙を書いたりする活動を示した上で、学習問題について自分の考えをワークシートにまとめる活動を示している。
  - ・ 「問題をほりさげ、よりよい未来をつくる力を身につけよう」では、「さらに考えたい問題」として、「災害にそなえて、わたしたちはどのようなことができるだろう。」を設定し、防災館での体験や防災に関するホームページをもとに、自分たちにできる防災対策について考えを深める活動を示している。

- ・ 「せんたく」という形で、地震災害、津波災害を調べられるようになっている。
- ・ 「学習資料」という形で、火山災害、雪害についても調べられるようになっている。
- ・ 「未来につなげる～わたしたちのSDGs～」という形で、家のまわりのハザードマップをつくる活動を示している。

### 3 内容の構成・配列・分量

#### 視点⑥ 単元や資料等の配列・分量

- 教科書の総ページ数は、次の通りである。
 

|    |        |
|----|--------|
| 3年 | 166ページ |
| 4年 | 212ページ |
| 5年 | 288ページ |
| 6年 | 282ページ |
- 選択可能な教材を目次に示している。各学年において選択可能な教材が示されている単元は、次の通りである。
 

|    |   |
|----|---|
| 3年 | わたしたちのくらしとまちではたらく人びと                                |
| 4年 | 自然災害から人々を守る活動                                       |
| 5年 | 日本の国土と人々のくらし<br>わたしたちの食生活を支える食料生産<br>情報化社会に生きるわたしたち |
| 6年 | わが国の政治のはたらき   |
- 6年「日本のあゆみ」は、12の小単元で構成している。飛鳥・奈良時代と平安時代を2つの単元に分けて構成している。
- 広島県に関する教材等は次の通りである。

#### 〔事例〕

- ・ 工業生産のこれからのSDGsの問題～東広島市の取り組み～(5年)
- ・ 平和記念式典のようす、平和への誓いを読みあげる小学生(6年)
- ・ 自然災害からの復旧や復興の取り組み(6年)
- ・ 原爆が落とされた直後の広島のようす(6年)

#### 〔写真〕

- ・ かき(4年)
- ・ 豪雨による土石流の被害(5年)
- ・ 砂防ダム(5年)
- ・ 厳島神社(6年)
- ・ 壬生の花田植(6年)
- ・ 原爆ドームをおとずれる外国人(6年)
- ・ 被爆ピアノを調律する矢川さん(6年)

### 4 内容の表現・表記

#### 視点⑦ 本文記述との適切な関連付けがなされた挿絵・写真等の活用

- 掲載した資料と本文記述に関連をもたせている。
- 5年「これからの食料生産」では、以下の本文等と同ページの資料との関連を図っている。
  - ・ 地図①「おもな食料の輸入先と輸入量のわりあい」  
→ 本文「①の資料を見ると、小麦や大豆は、その多くを輸入にたよっているね。」
  - ・ グラフ③「日本のおもな食料の自給率のうつり変わり」  
→ 本文「③のグラフを見てみると、50年ほど前と比べて、特にくだものや肉類、魚かい類の食料自給率が低くなっているよ。」
  - ・ グラフ④「1人1日あたりのおもな食料の消費量の変化」  
写真⑤「食生活の変化」  
→ 本文「④のグラフを見ると、米の消費量が、50年前と比べて半分ほどに減っているね。⑤のように、今はごはんだけでなく、パンやめんなどもよく食べているからかな。」

#### 視点⑧ 本文以外の記述の工夫

- 重要な用語を、側注の「キーワード」で取り上げ、解説している。
- 難しい言葉を、側注の「むずかしい言葉」で取り上げ、説明している。
- 「学び方・調べ方コーナー」を「見る・調べる」「読み取る」「表現する」の観点に分け、場面に応じた学習方法を示している。

#### 視点⑨ 配色や文字の大きさ等の工夫

- カラーユニバーサルデザインに配慮している。
- ユニバーサルデザインフォントを採用している。

### 5 言語活動の充実

#### 視点⑩ 調べたことや考えたこと、選択・判断したことを適切に表現する力を育成するための工夫

- 小単元の終わりには、学習問題を意識させる文章と学習者が対話をするイラストを掲載し、学習したことをまとめるように示している。
- 6年「日本国憲法と政治のしくみ」では、三権分立や日本国憲法の三つの原則等について、図や表、プレゼンテーション等の発表資料にまとめた上で、話し合うようにしている。
- 6年「アジア・太平洋に広がる戦争」では、これまで学習したことを新聞にまとめた上で、なぜ日本が戦争をしたのかについて話し合うようにしている。



#### 4 意見

広島市教科用図書採択審議会では、本市児童の課題である「自ら課題を見付けることや身に付けた知識、調べたこと、考えたことをもとに、協働的に学ぶこと」に対応する各教科書の特徴について、広島市教科用図書採択審議会調査員が作成した「令和6年度から使用する小学校用教科用図書の調査・研究報告書」を基に審議した。

##### 意見1 東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- ・ 見開きページに、「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」という問題解決的な学習の過程を示している。また、各学年の最初の单元の中で、問題解決的な「学習の進め方」を学習活動の具体例とともに示し、児童が自ら課題を見付け、見通しをもって学習を進めることができるようにしている。
- ・ 広島市を取り上げた事例として、「『平和学習の街ヒロシマ』を訪ねて」（6年）を見開きページで設け、平和記念式典やヒロシマからの平和発信等について、写真や年表、文章で示すとともに、「平和への誓い」を掲載している。
- ・ 言語活動について、活動の手順や書き込みやすいワークシート例を示しており、児童自らが身に付けた知識、調べたこと、考えたことを基に、表現することができるようにしている。

##### 意見2 教育出版の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

- ・ 見開きページに、「つかむ」「調べる」「まとめる」「つなげる」という問題解決的な学習の過程を示している。また、各学年の巻頭に、最初の单元を例として、問題解決的な「学習の進め方」を示している。
- ・ 広島市を取り上げた事例として、見開きページで「平和への誓い」（6年）を写真や文章とともに掲載している。
- ・ 言語活動について、活動の手順やリーフレットの作品例を示しており、児童自らが身に付けた知識、調べたこと、考えたことを基に、表現することができるようにしている。

令和6年度から使用する広島市立小学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔社会〕種目〔地図〕

令和6年度から使用する小学校用教科用図書の採択について

教科 [ 社会 ] 種目 [ 地図 ]

1 本市の実態や児童の状況

- 本市には、官公庁や商業施設が集まる地域、工業・農業・漁業等が行われている地域、宅地造成により住宅地が広がる地域、豊かな自然の残る地域、歴史的遺物がある地域など、それぞれに異なる特色をもつ地域がある。また、近年の自然災害の脅威は、本市においても大きな課題となっており、高い防災意識が求められている。社会的事象を学ぶ社会科にとっては、様々な分野の事象を具体的に観察・調査することができる環境にあるため、児童が興味・関心をもちながら学習することができる好条件の市域である。
- 国際平和文化都市である本市で学ぶ児童は、平和に対する意識が総じて高く、平和な社会の実現へ向けて、自分たちにできることを考えようとするすることができる。また、社会的事象への関心が高く、体験的な学習にも積極的に取り組むことができる。しかし、自ら課題を見付けることや身に付けた知識、調べたこと、考えたことをもとに、協働的に学ぶことには課題が見られる。

2 調査・研究の観点と視点

| 観 点             | 視 点  |
|-----------------|--|
| ＜基礎・基本の定着＞      | ① 地図の見方や活用の仕方を定着させるための工夫<br>② 地域や我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫 |
| ＜主体的に学習に取り組む工夫＞ | ③ 興味・関心を高めるための工夫<br>④ 課題を追究したり、解決したりする学習を実施するための工夫           |
| ＜内容の構成・配列・分量＞   | ⑤ 地図や資料等の配列  |
| ＜内容の表現・表記＞      | ⑥ 学習内容との適切な関連付けがなされた挿絵・写真等の活用<br>⑦ 配色や文字の大きさ等の工夫             |
| ＜言語活動の充実＞       | ⑧ 調べたことや考えたこと、選択・判断したことを適切に表現する力を育成するための工夫                   |

### 3 各教科書の特徴

#### 1 基礎・基本の定着

##### 視点① 地図の見方や活用の仕方を定着させるための工夫

- 地図帳の導入にあたるページを2ページ設け、まちの様子をイラストと地図で示している。
- 「地図のきまり」を4ページ設け、方位、地図記号、凡例、距離、地形表現についてイラストを使って説明し、地図の見方を示している。
- 「地図帳の使い方」を2ページ設け、凡例、索引、縮尺についてイラストを使って説明し、地図の活用の仕方を説明している。

##### 視点② 地域や我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫

- 「日本とそのまわり」では、日本の国土の広がりについて、排他的経済水域の説明とあわせて示している。また、東西南北の端にある島の写真を掲載している。さらに、尖閣諸島、竹島については、別ページに写真を掲載している。
- 「日本の歴史」では、年表、地図、イラストを用いて、歴史上の主な出来事や各時代における国名、日本と世界とのかかわり等について示している。
- 「日本の自然災害」では、日本で起きた主な自然災害の発生場所を地図上に示すとともに、噴火・地震・洪水・土砂災害・大雪・津波による被害の様子について写真を掲載している。

#### 2 主体的に学習に取り組む工夫

##### 視点③ 興味・関心を高めるための工夫

- オリジナルのキャラクターの吹き出しで地図の使い方や大切なポイント、地図を見ての気付きや疑問などを掲載している。
- 「地図のぼうけんに出発! World Map」では、「世界の人みんなに『ありがとう!』」と題して、15か国の「ありがとう」を紹介している。
- 「ホップステップマップでジャンプ!」を全70問掲載し、記号やイラスト、位置や空間的な広がり等に着目させる問いを示している。

##### 視点④ 課題を追究したり、解決したりする学習を実施するための工夫

- 全般にわたって、「ホップステップマップでジャンプ!」で、作業や地図に書かれている情報を読み取る問いを、レベルを3段階に分けて設定している。

(例) レベル1 「方位じしんの色のついた針はどの方位をさすかな。」

レベル2 「これは博士の朝ごはんです。この食材はどこの国から来たものか、この地図から探してみよう。」

レベル3 「実際のわたしたちは、まほうで飛んでまちを見ることはできません。では、どのようにして、高いところから見たまちの様子を知ればよいか考えてみよう。」

- 「世界全図と地球儀」では、「地球儀を使って調べる」として、紙テープやトレーシングペーパーを使って、方位や距離、土地の大きさや形を調べる方法を写真入りで掲載し、地球儀と地図を比較する学習を例示している。

#### 3 内容の構成・配列・分量

##### 視点⑤ 地図や資料等の配列

- 総ページ数：102ページ

- ・ 「南西諸島」「九州地方」に関するページ：6ページ
- ・ 「中国地方」「四国地方」に関するページ：4ページ
- ・ 「近畿地方」に関するページ：6ページ
- ・ 「中部地方」に関するページ：6ページ
- ・ 「関東地方」に関するページ：6ページ
- ・ 「東北地方」に関するページ：3ページ
- ・ 「北海道地方」に関するページ：2ページ

- 日本とその周りを見渡す地図に始まり、日本の地方図と都市圏図、世界全図、世界の各地方図、資料地図、統計表、索引の順で配列している。

- 資料地図については、自然、産業、貿易、歴史の順で構成されている。

#### 4 内容の表現・表記

##### 視点⑥ 学習内容との適切な関連付けがなされた挿絵・写真等の活用

- 北方領土については、写真を掲載し、関係国が「不法に占拠を続けており、日本は一貫して返還を求めています。」と文章でも示している。
- 竹島については、写真を掲載し、「日本固有の領土ですが」、関係国に「不法に占拠され、日本は抗議を行っています。」と文章でも示している。
- 尖閣諸島については、写真を掲載し、「日本固有の領土です。」と文章でも示している。
- 世界の州別地図では、動物や料理等を写真やイラストで紹介している。

##### 視点⑦ 配色や文字の大きさ等の工夫

- 「日本の都道府県の統計」では、地方別に色分けをして示すとともに、統計1～5位の数値を赤字で示している。
- ユニバーサルデザインフォントを採用している。
- 色覚特性のある児童にも判別しやすくするために、「畑」「果樹園」「森林(、公園)」の凡例には、色に加え

て地紋を入れている。

- 表紙に、世界の人々のイラストと自然遺産や文化遺産等の写真を掲載している。

#### 5 言語活動の充実

**視点⑥** 調べたことや考えたこと、選択・判断したことを適切に表現する力を育成するための工夫

- 「日本の自然災害」では、「宮城県南三陸町志津川地区のハザードマップ」とともに、「①どこで、どんな災害が起こりやすいか」、「②ひなんする場所とそこまでの道のりを確認しておこう。」と自分の地域のハザードマップで確認する点を文章で示している。
- 「ホップステップマップでジャンプ!」において、次のような表現活動を示している。
  - ・ オリジナルの地図記号を考えてみよう。
  - ・ 日本海側の冬と太平洋側の冬とは、どのようなちがいがあがあるのか考えよう。

1 基礎・基本の定着

**視点①** 地図の見方や活用の仕方を定着させるための工夫

- 地図帳の導入にあたるページを4ページ設け、学校のまわりの様子やまちの様子をイラスト、写真、地図で示している。
- 「地図のやくそく」を6ページ設け、方位、地図記号、土地利用についてイラストと写真を使って説明し、地図の見方を示している。
- 「地図帳の使い方」を4ページ設け、凡例、索引、縮尺、距離についてイラストを使って説明し、地図の活用の仕方を説明している。

**視点②** 地域や我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫

- 「日本の領土とそのまわり」では、日本の国土の広がりについて、排他的経済水域の説明とあわせて示している。また、東西南北の端にある島及び北方領土（国後島）、竹島、尖閣諸島の写真を掲載している。
- 「日本の歴史」では、年表、地図、イラストを用いて、歴史上の主な出来事や昔の国名等について示している。また、別ページに、「江戸時代の結びつき」として、東海道をはじめとした、江戸時代の五街道に関する地図を、歌川広重の東海道五十三次の絵とともに掲載している。
- 「日本の自然災害と防災(1)」では、日本で起きた主な噴火や地震の発生場所を地図上に示すとともに、地震・津波・噴火・大雨・大雪による被害の様子について写真を掲載している。また、「日本の自然災害と防災(2)」では、各地の防災の取組等を掲載している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

**視点③** 興味・関心を高めるための工夫

- オリジナルのキャラクターの吹き出しで地図の使い方や大切なポイント、地図を見ての気付きや疑問などを掲載している。
- 「地図で世界発見！」のページでは、「世界の国からこんにちは！」と題して、11か国の「こんにちは」を紹介している。
- 「地図マスターへの道」を全100問掲載し、記号やイラスト、位置や空間的な広がりに着目させる問いを示している。
- 「中国地方」とは別に、「瀬戸内海周辺」のページを設け、広島・岡山・愛媛・香川を中心とした縮尺50万分の1の地図とともに、広島市の拡大図を掲載し、原爆による被害状況等についても示している。

**視点④** 課題を追究したり、解決したりする学習を実施するための工夫

- 全般にわたって、「発見しよう」「トライ！」で、地図に親しむことができる作業や問いを設定したり、「地図マスターへの道」で、地図に書かれている情報を読み取る問いを、レベルを3段階に分けて設定したりしている。
- (例) レベル1 「21ページで、沖縄県にある水族館をさがしてみよう。」
- レベル2 「22ページで、福岡市から鹿児島市まで、新幹線の線路（地図記号）を指でたどってみよう。」
- レベル3 「野辺山原で高原野菜づくりがさかんな理由を説明してみよう。」
- 「世界と地球儀」では、「地球儀を使おう」として、紙テープやトレーシングペーパーを使って、方位や距離、面積、形を調べる方法を写真入りで掲載し、地球儀と地図を比較する学習を例示している。

3 内容の構成・配列・分量

**視点⑤** 地図や資料等の配列

- 総ページ数：132ページ
  - ・ 「南西諸島」「九州地方」に関するページ：6ページ
  - ・ 「中国地方」「四国地方」に関するページ：6ページ
  - ・ 「近畿地方」に関するページ：10ページ
  - ・ 「中部地方」に関するページ：6ページ
  - ・ 「関東地方」に関するページ：11ページ
  - ・ 「東北地方」に関するページ：3ページ
  - ・ 「北海道地方」に関するページ：4ページ
- 日本の複数の地方を広く見渡す地図に始まり、日本とその周りを見渡す地図、日本の地方図と都市圏図、世界全図、世界の各地方図、資料図、統計、索引の順で配列している。
- 資料図については、自然、自然災害、産業、貿易等、歴史の順で構成されている。

4 内容の表現・表記

**視点⑥** 学習内容との適切な関連付けがなされた挿絵・写真等の活用

- 北方領土については、写真を掲載し、「日本固有の領土ですが」、関係国が「不法に占拠しています。」と文章でも示している。
- 竹島については、写真を掲載し、「日本固有の領土ですが」、関係国が「不法に占拠しています。」と文章でも示している。
- 尖閣諸島については、写真を掲載し、「日本固有の領土です。」と文章でも示している。
- 世界の州別地図では、「集まれ！世界の子どもたち」「世界のSDGs」として、その国の文化や特徴、取組等を写真とともに紹介している。

**視点⑦** 配色や文字の大きさ等の工夫

- 「日本の統計」では、地方別に色分けをして示すとともに、統計1位の数値を赤太字、2～5位を赤字で示し

|                  |   |
|------------------|---|
| 帝<br>国<br>書<br>院 | <p>ている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ユニバーサルデザインフォントを採用している。</li> <li>○ 色覚特性のある児童にも判別しやすくするために、「田」、「畑」、「建物が密集しているところ」、「公園や緑地」、「果樹園」、「山地（や丘陵地）」、「森林」、「牧草地」の凡例には、色に加えて地紋を入れている。</li> <li>○ 表紙に世界地図のイラストを掲載するとともに、「3・4・5・6年」と対象学年を表記している。</li> </ul> <p>5 言語活動の充実</p> <p><b>視点⑧</b> 調べたことや考えたこと、選択・判断したことを適切に表現する力を育成するための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「日本の自然災害と防災(2)」では、「防災マップづくり」として、防災マップの作品例を掲載するとともに、防災マップの作成から発表までの手順を示し、表現活動を例示している。</li> <li>○ 「地図マスターへの道」において、次のような表現活動を示している。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 気仙沼湾で養殖業が盛んな理由を説明してみよう。</li> <li>・ 1月に日本海側で降水量が多い理由を説明してみよう。</li> </ul> </li> </ul> |
|------------------|---|

#### 4 意見

広島市教科用図書採択審議会では、本市児童の課題である「自ら課題を見付けることや身に付けた知識、調べたこと、考えたことをもとに、協働的に学ぶこと」に対応する各教科書の特徴について、広島市教科用図書採択審議会調査員が作成した「令和6年度から使用する小学校用教科用図書の調査・研究報告書」を基に審議した。

##### 意見1 帝国書院の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- ・ 「地図のやくそく」や「地図帳の使い方」などの地図帳の導入にあたるページを14ページ設け、地図の見方、方位、地図記号、索引、縮尺等について大きなイラストや写真、地図等を使って説明し、地図帳の入門期となる3年生の児童でも地図を活用するための基礎的な力を身に付けることができるようにしている。
- ・ 100万分の1の「中国地方」「四国地方」の地図に加え、50万分の1の「瀬戸内海周辺」を拡大した地図を示すことで、児童が身近な地域に興味・関心をもちながら地図を活用し、自ら課題を見付けたり、調べたりすることができるようにしている。
- ・ 表現活動の工夫として、「防災マップづくり」の手順を示したり、「地図マスターへの道」において、地図から読み取ることができる内容について「～を説明してみよう。」などと示したりすることで、調べたことや考えたことを表現することができるようにしている。

##### 意見2 東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

- ・ 「地図のきまり」や「地図帳の使い方」などの地図帳の導入にあたるページを8ページ設け、地図の見方、方位、地図記号、索引、縮尺等についてイラストや地図等を使って説明し、児童が地図を活用するための基礎的な力を身に付けることができるようにしている。
- ・ 100万分の1の「中国地方」「四国地方」の地図を示している。
- ・ 表現活動の工夫として、「ホップ・ステップ・マップでジャンプ!」において、オリジナルの地図記号を考える活動や地図から読み取ることができる内容について「～を考えてみよう。」などと示している。